

新しい小・中学校学習指導要領

(文科省中教審答申2016.12、2017.3公示)

社会に開かれた教育課程

「どのように学ぶか」(主体的な学び・対話的な学び・深い学び)

総則： 社会に開かれた教育課程 カリキュラム・マネジメントの流れ 学校等段階間・教科等間の連携 子供の発達の支援、家庭・地域との連携

国語科： 語彙 論理的思考力 考えの形成と深化 言語文化

社会科： 主権 防災・安全 海洋・国土 グローバル化 産業構造 伝統文化 地歴政経等について制度等の理解 多面的・多角的考察・構想・表現 主体的問題解決の態度

算数・数学科： 生活・社会・数学の事象から問題を見出して主体的に取り組む 統計的内容

理科： 科学的に探究する学習活動 生活・社会との関連

**生活科、音楽科、図画工作科、美術科、家庭科、技術・家庭科(技術・家庭科
技術分野:プログラミング、情報セキュリティ、知的財産、技術倫理)、体育科、
保健体育科(する・みる・支える・知る)**

**外国語活動、外国語科: 聞く・読む・話す(やりとり)・話す(発表)・書く別に5
つの目標 小学校中学年から聞く・話す、高学年から読む・書く 中学校では対
話的言語活動、英語で授業 小学校語彙600-700 中学校語彙 1200 ⇒
1600-1800**

**特別の教科 道徳(道徳科): 2015から先行改訂 小学校2018 中学校
2019全面実施 道徳的価値を自分の事として多角的・多面的に考える いじ
め問題対応 問題解決的学習 数値評価や入試利用は行わず個人の成長を
個人内評価**

**総合的な学習の時間: 目標や内容の設定方法(各学校) 課題探究 各教科
⇒実生活・実社会で活用 言語能力・情報活用能力など教科を超える学習の
基盤を育成**

**特別活動: 人間関係形成 社会参画 自己実現 学級の課題 キャリア教育
自治能力 主権者としての社会参画 他者との協働 安全・防災**

外国語教育の抜本的強化のイメージ

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導要領の編纂のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

CEFR

B2

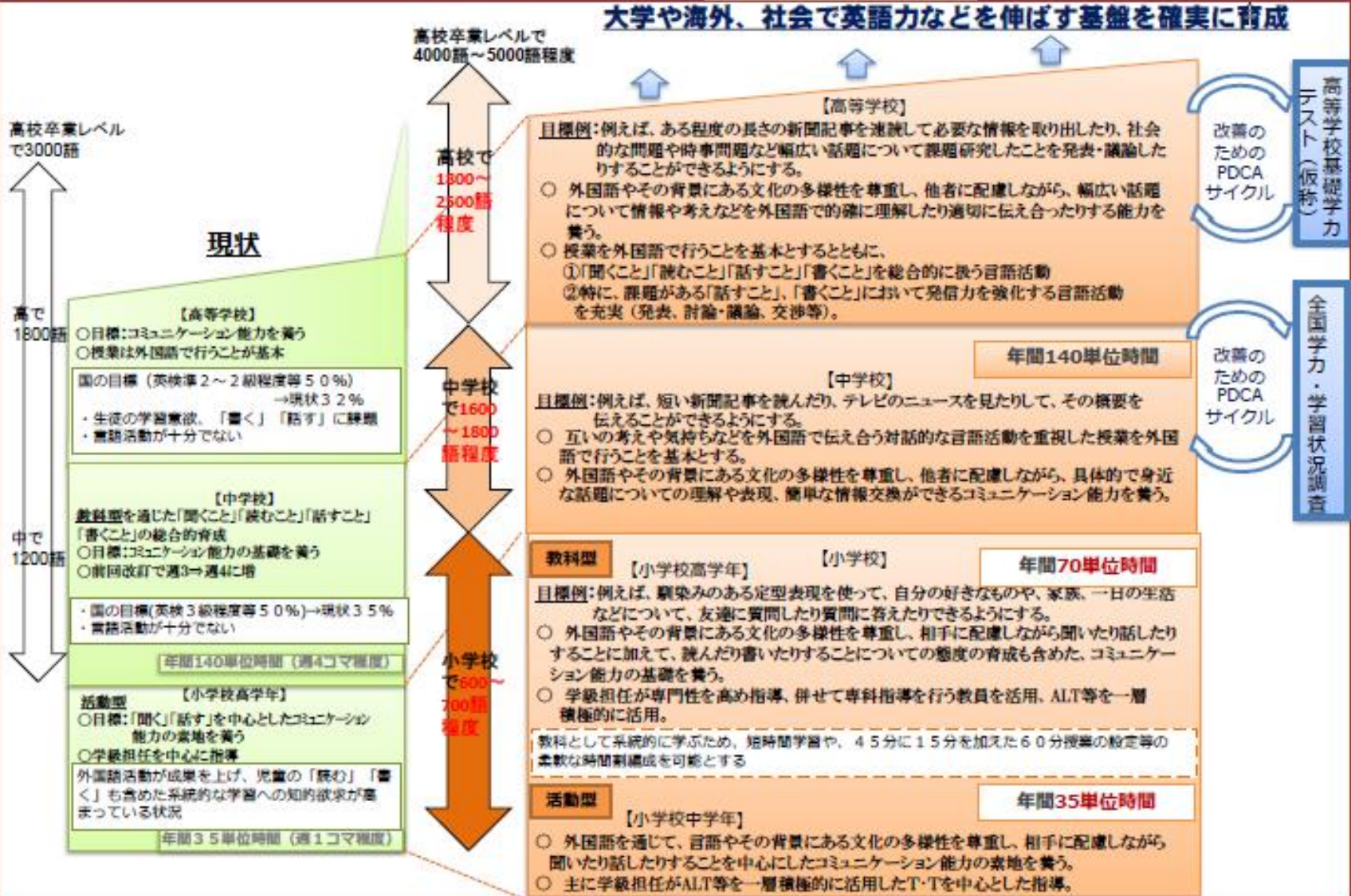
B1

A2

A1

新たな外国語教育

大学や海外、社会で英語力などを伸ばす基盤を確実に育成



「高校生のための学びの基礎診断(仮称)」制度のイメージ(たたき台)



高等学校における基礎学力の定着に向けたPDCAサイクルの構築

取組を促進

測定ツールの充実

高校



社会で自立するために必要な基礎学力について、各学校がそれぞれの実情を踏まえて目標を設定し、教育課程を編成。

多様な測定ツールを活用しながら生徒の学習状況を多面的に評価し、指導の工夫・充実を図っていく。



結果の
分析・
活用



日々の授業や
指導の工夫・充実

テスト
実施



多様な学習活動の実施

設置者による学校
への支援

設置者



○高校の魅力づくりとともに、質の確保のための体制強化や再編整備

○学校支援のための教員人事配置や予算措置、教員研修等の取組

高校の実態に即したものと
なるように仕組みを
構築

各高校が、生徒の実情等を踏まえ、
必要と考える測定ツールを選んで実施

「学びの基礎診断」の仕組みの構築

(一定の要件に即して民間の試験等を認定する仕組みを創設)

基準・条件等
の設定

事前・事後チェック
体制の整備

仕組みの構築と運用を通じて、示された基準・条件等を踏まえながら、民間において高校教育の充実に資する測定ツールの開発が進むことを期待

基準・条件等の考え方(イメージ)

出題内容に係る基準・条件等

- ・ 学習指導要領との対応や出題形式等、制度の趣旨・目的に合致する出題であること。
- ・ 受検者の学習成果や課題について確認できる結果提供であること。

※ 高校教育の多様性への対応と、共通性の確保のバランスに留意が必要。

実施方法に係る基準・条件等

- ・ 学校での実施や複数回受検等、学校の実情に応じて活用できる実施方法であること。
- ・ 学校に過度な負荷がかからず、安定的・継続的に実施できる方法であること。

※ 学校にとっての利便性と、実施コスト(受検料に影響)とのバランスに留意が必要。

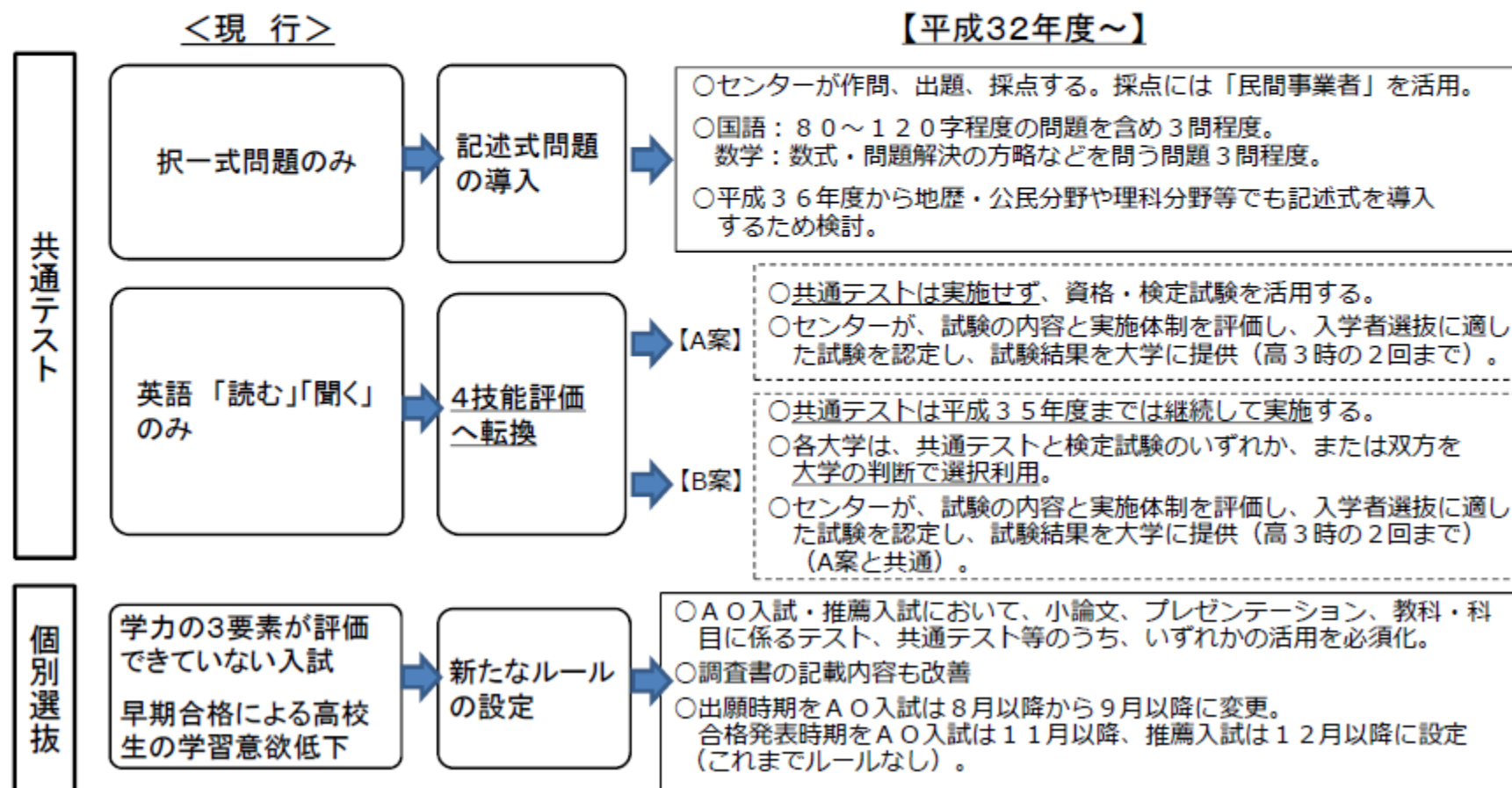
引き続き試行調査の結果や高校・教育委員会等の関係者、民間事業者等の意見を考慮しつつ、専門的な検討を加え、できるだけ早期に認定基準等を策定し、平成30年度中に認定制度の運用を開始することを目指す。



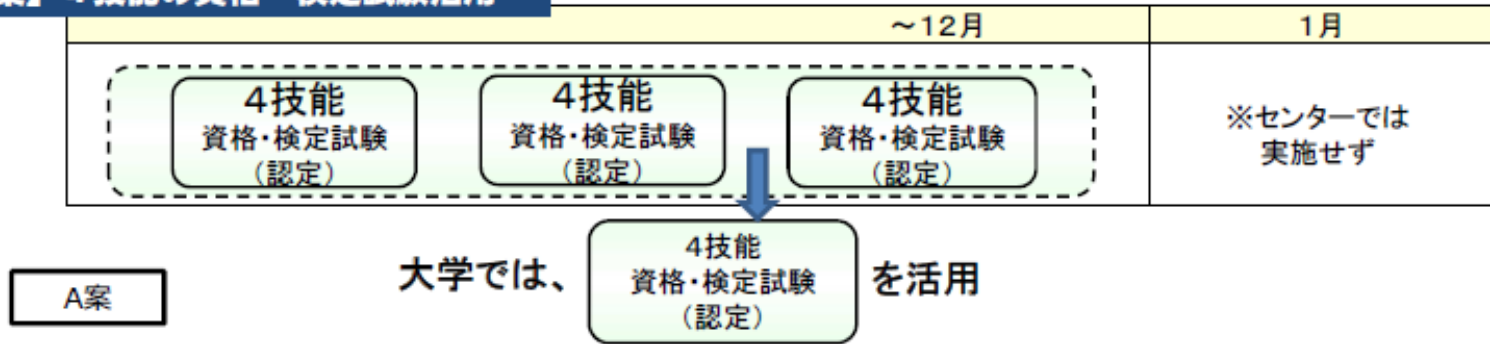
.....

高大接続改革（大学入学者選抜改革）

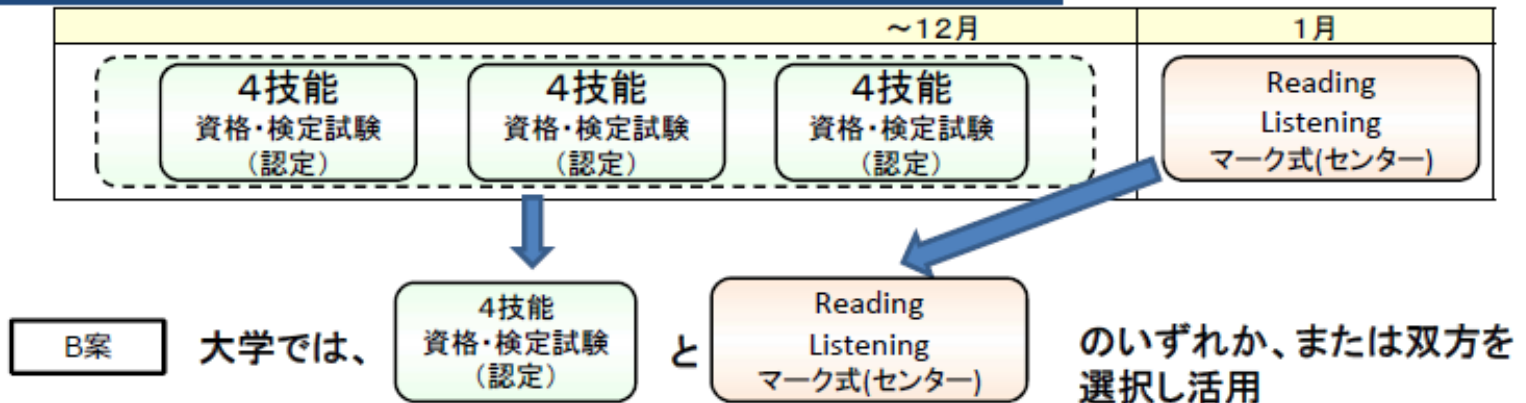
- ◆ 受検生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換
 - ① 知識・技能 ② 思考力・判断力・表現力 ③ 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
- ◆ 高大接続改革実行プラン、高大接続システム改革会議最終報告に沿って、大学入学者選抜の改革を着実に推進
- ◆ 平成32年度「大学入学共通テスト(仮称)」開始 ※記述式、英語4技能
平成36年度 新学習指導要領を前提に更に改革



【A案】 4技能の資格・検定試験活用



【B案】 英語4技能の資格・検定試験活用と2技能のセンター実施（※）



(※) 2技能のセンター実施は、平成35年度まで

個別大学の入学者選抜

AO入試、推薦入試、一般入試の在り方の見直し

多様な背景をもつ受検者の選抜

調査書の見直し

推薦書の見直し

多角的評価方法とその配分比率をアドミッションポリシーに明記

実施時期の検討

その他

【以下、高大接続システム改革会議2016.3.11「最終報告案」p.39を修正(脚注省略)】

具体的な評価方法としては、例えば、次のようなものが考えられる。

- 「大学入学共通テスト(仮称)」の結果
- 自らの考えに基づき論を立てて記述させる評価方法
- 調査書
- 活動報告書
- 各種大会や顕彰等の記録、資格・検定試験の結果
- 推薦書等
- エッセイ、大学入学希望理由書、学修計画書
- 面接、ディベート、集団討論、プレゼンテーション
- その他

○ その際、大学入学前に取り組んできた学習や活動の履歴や、大学における学修への意思や意欲等をより適切に評価するため、国においては、「調査書」の在り方を見直すとともに、提出書類のより積極的な活用を促すことも必要である。

大学教育 改革

個別の大学は何を 目指すべきか？



高等学校と大学は まったく異なる存在



大学が 目指すべきは 「大社接続」

(どんな卒業生が社会
で活躍しているのか)

参考21

大学入試 改革

大学入試が変わろうとしている。文部科学省の有識者会議が3月末にまとめた最終報告では、大学入試センター試験に代わって2017年度から思考力や表現力を重視した新テストを実施し、記述式問題も導入する方針を打ち出した。各大学でも面接や高校の調査書を通じ、個性や意欲を評価する選抜が広がる。新しい入試への対応を迫られる教育現場の取り組みを探る。

中高一貫の進学校として知られる東京都立小石川中等教育学校(文京区)には昨年度、全国の高校や教育委員会から11回の視察があった。目的は生徒自らが課題を見つけ、研究する学習活動「探究」の見学だ。センター試験に代わる新テスト「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」で重視する思考力や表現力の育成にもつながると注目されている。

5月上旬の放課後、約20人の生徒が実験室で、ロボットの動きを制御するコンピュータプログラムを開発や化学反応で発光するライトの研究などに打ち込んでいた。単3電池のエネルギー量を調べて電車のモデル列車を調べていた5年生(高校2年)の秋元朝香(16)は、「試行錯誤しながら自分で立てた仮説を立証し、レポートにまとめるように思った」と笑顔をみせた。同校の探究活動は10年前、文系・理系に偏らない思考力を育成しようとはまった。3、

思考力・表現力育成に磨き

◆大学入試センター試験と新テストの比較

年度	2019年度まで	20年度～23年度	24年度～
名称	大学入試センター試験	大学入学希望者学力評価テスト(仮称)	
対象(進級する)	中3まで	中2～小5	小4から
出題方式	マークシートの選択式	マークシート+短答式+記述式(国語、数学)	コンピュータを使った読解式+長文記述式
実施回数・時期	年1回・1月	「選択式」と「記述式」を同時に実施するか、別日程で実施するか検討	年複数回実施を検討
成績	1点刻み	「記述式」はランクごとの段階別評価	

(文部科学省の有識者会議の最終報告を基に作成)



ロボットを動かすプログラムの開発に取り組む生徒たち(5月上旬、東京都立小石川中等教育学校で)

記述式採点などに課題

文科省は2017年度初めまでに新テストの具体的な実施内容を決めるが、記述式問題の導入には採点などの課題も多い。

文科省の試算では、国語と数学に記述式を取り入れ、受験者数が53万人に上った場合、1日800人が採点しても、解答の文字数に応じて20～60日間を要する。そのため、従来のマークシート式と記述式のテストを別日程で行う案も検討されている。

大手予備校「河合塾」の模試担当者は「大学入試は公平、公正が大前提。採点要員を確保し、採点の精度を高めるのは容易ではない」と指摘する。

高校側にも戸惑いが広がる。20～23年度は40～80字程度の短文記述式、24年度以降は200～300字程度の長文記述式を導入予定だが、実施日程や難度など不透明な点も多く、都内の進学校の教諭(55)は「新テストの狙いは理解できるが、現実にとどんなものになるのかイメージがわからない」と話す。

4年生は総合学習の時間などに独自の研究を行い、他の学年も放課後などに自主的に残って、研究を続けている。茨城県立竹園高校(つくば市)の国語科でも2年生が週1回、探究的な学習を行う。テーマは「漫画の経済効果」から「古米を使ったバイオマ」まで幅広く、シンガポールの大学を訪問する研修

旅行の際には、一部の生徒が研究成果を英語で発表している。取り組みは国際社会で活躍する人材を育てようと8年前にスタートした。当初は「受験の妨げになるのでは」との意見もあったが、導入前は約150人だった国公立大の合格者数は、5年間、約1700～1900人で推移している。

新テストでは、従来のマークシートの選択式を思考力を重視した内容に改め、一部に記述式問題も導入する。高校の授業を探究型などの能動的な学習に改善することも目的の一つだ。「改革の方向性をみても、やってきた」とは間違ったのではないかと。竹園高校の井坂博子校長は胸を張る。

通信教育や全国模試を展開する「ベネッセコーポレーション」は昨秋、新テストを見据え、高校2年生約7500人を対象に記述中心のテストのある公立高校では、上位グループの生徒の成績が従来型の模試に比べて悪かった。校長は「暗記が得意でも自分の考えを整理して記述する訓練が足りない」と実感した。文科省が公表した新テストの記述式問題例では、交通事故に関する複数の統計資料を読み解き、分析結果を文章で表現する国語の問題などが示された。この公立高校はセンター試験で「70点」の得点を狙っているが、進路指導を担当教諭(53)は「公表された問題の難度では、今のうちの生徒は30%程度しか取れない。指導を工夫するしかない」と話す。今後は生徒が課題研究やグループ討議などを行う「アクティブラーニング」を充実させる予定だという。

「探究型」授業 効果じわり

©Yuichiro Anzai

*「スクールデイズ」休みました。

*ご意見は 〒100-8055 読売新聞東京本社教育部(ファクス 03-3217-9908、メール kyouiku@yomiuri.com)

これから日本で学ぶ生徒・学生にとって**最も**大事なものは **主体性**

1. 主体性とは、自分の目標を自分で 見いだし、実践する力

(≠一人よがり主張する力、
≠人の意見に従わない力)

2. 自分の目標をもっている人の心は、
その目標が達成されやすいように
はたらく。主体性は他の諸々の
「学び、働く力」の原動力。



『問題解決の心理学—
人間の時代への発想』
中公新書, 1985



FSP研究会

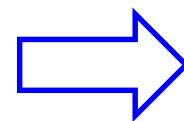
約100企業、約20大学参加
大学1年春学期を中心に
約6000人受講。

第5回シンポジウム

「学ぶとはたらくをつなぐ課外授業
～大学の学びは社会で生きる～」

2015年12月25日(金)13:00～17:30
明治大学アカデミーコモン内アカデミーホール
(東京お茶の水)

参加者600名以上



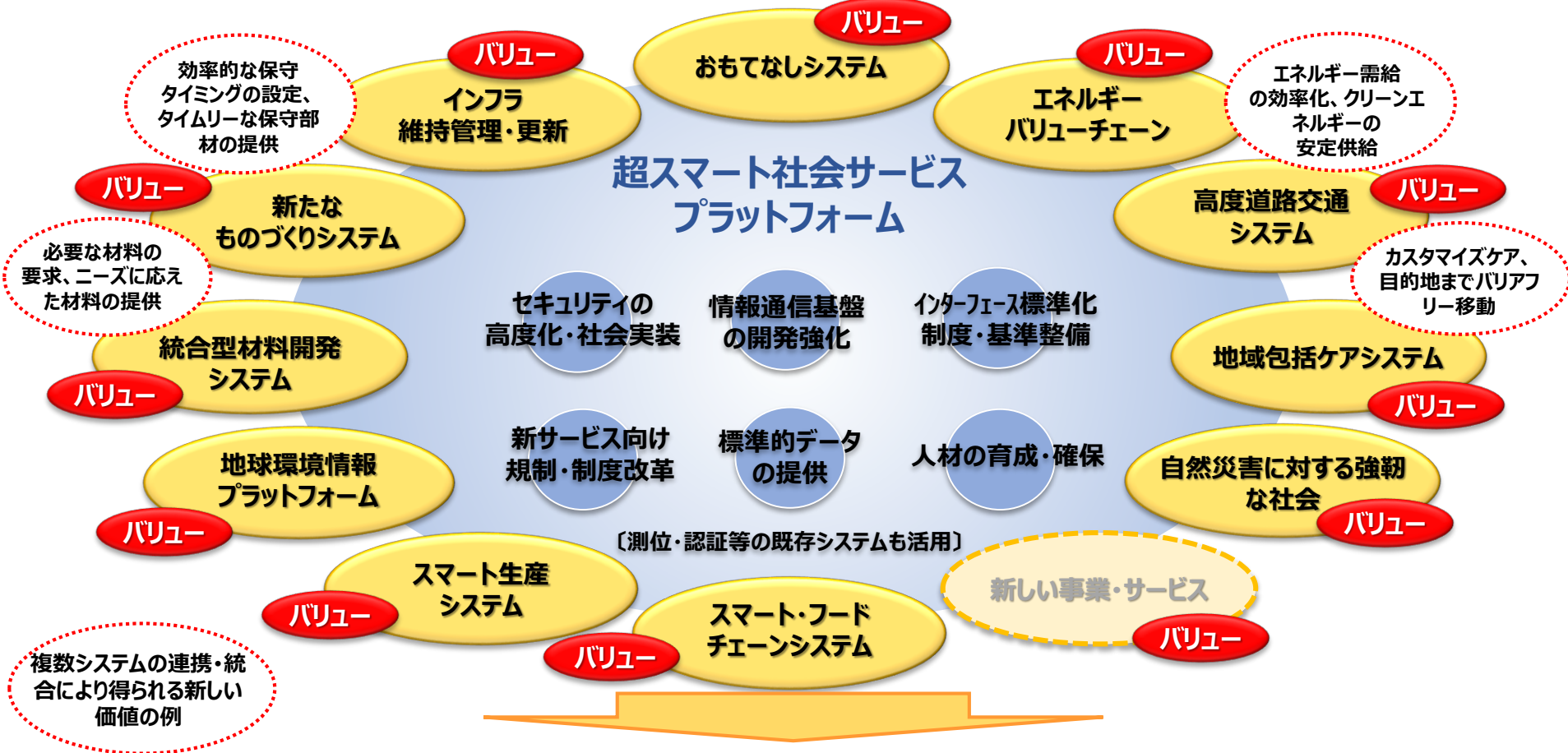
2017年3月4日(土)
13:00～17:00
正会員・実践者
による意見交換会
立教大学(東京)

一般社団法人フューチャースキルズプロジェクト研究会

<http://www.benesse.co.jp/univ/fsp/>

科学技術の将来像

第5期科学技術基本計画（2016.4～2021.3）



超スマート社会が生み出す価値

- 生活の質の向上をもたらす人とロボット・AIとの共生
- 誰もがサービス提供者となれる環境の整備
- 潜在的ニーズを先取りして人の活動を支援するサービスの提供
- ユーザーの多様なニーズにきめ細やかに応えるカスタマイズされたサービスの提供
- 地域や年齢等によるサービス格差の解消

スポーツの将来像

大学スポーツの振興と地域振興

大学スポーツの振興に関する検討会議 最終とりまとめ

～大学のスポーツの価値の向上に向けて～

文部科学省 2016.4～2017.3

大学を中心としたコミュニティづくり

文武両道

リーダーシップ教育

デュアルキャリア形成の支援

マネジメント、ガバナンスの強化

大学スポーツアドミニストレーター

(SA)の設置

大学スポーツ局の設置

学産官連携協議会の設置

(第2期スポーツ基本計画)



**自主的活動・競技縦割り・
手弁当でOB・OGが指導**



**大学横断・競技横断的統括組織
(日本版NCAA)の創設へ**



**大学がスポーツを核にして
コミュニティを形成**

「する」と「みる」と「ささえる」が協働

ICTの将来像

広域での学びの在り方とICTの活用

高大接続改革の展望 とICTの活用

—未来に生きる子どもたちのために—

教育の場でICTは何の役に立つのか？

基礎知識・技能の獲得

思考力・判断力・表現力の育成

主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度の養成

学びの方法：一斉授業、協働学習、個別学習

学びの場：教室、校内、校外（家庭、地域、国外・・・）、ユビキタス・・・

広域での学びの支援

学びの道具：教材、副教材、ノート、宿題、コミュニケーション（⇔教員、⇔生徒、⇔その他）、記録とその利用（ポートフォリオ・・・）・・・

社会と学びの関係づけ

校務支援

教員研修

教学マネジメント

調査書・指導要録の作成と運用

活動報告書の作成と運用

テスト問題の作成、採点

その他多数 どこにでもある

教育工学の蓄積⇔学習科学の潮流の間関係をより良いものにする。
「ICTを活用することによって具体的に何が身につくのか」を明確にする。
「結果からプロセスへ」⇒プロセスの評価方法の研究開発を行う。

ICTの利活用：展望と課題

例えば・・・

全国ICT教育首長サミット開催 日本初！首長によるICT教育アワード ～ 栄えある文部科学大臣賞は茨城県つくば市に決定 ～

2017年2月22日（水）全国ICT教育首長協議会主催による「全国ICT教育首長サミット」を開催いたしました。

当協議会は、2016年10月19日（水）に「全国ICT教育首長協議会」総会を開催し、現在では116自治体が加入しており、21世紀の予測困難なグローバル社会、日々加速する情報化の流れのなかで活躍する人材を育むためには、これまでの教育に加えICTを活用した新しい教育方法が有効であると考え、推進するものです。当協議会は、文部科学省が主催する「2020年代に向けた教育の情報化に関する懇談会」においてもその意義が位置付けられております。

第1部 開会行事（会長挨拶、来賓祝辞、役員紹介、来賓紹介、講話）

第2部 日本初！2017日本ICT教育アワード

第1回となる本「アワード」では、全国ICT教育首長協議会のモデルケースとしてふさわしく、首長の主体的な行動がその地域の教育課題を解決し、その取組がICT教育導入の進んでいない他の地域でも展開できる取組を行う6自治体（岐阜県岐阜市、滋賀県草津市、佐賀県武雄市、茨城県つくば市、東京都日野市、熊本県山江村）が2次審査に進み、本「サミット」でプレゼンテーションを行いました。そして、参加51の首長自身（又は代理）の投票により、茨城県つくば市が文部科学大臣賞に選出されました。また、ノミネートされた5自治体には協議会会長賞が贈られました。

第3部 エデュカッション ～教育ICT推進のためのサロン～ *エデュカッションとはEducationとDiscussionの造語

自治体が抱える下記の2大課題に対し首長と企業が膝を突き合わせ意見・情報交換を行いました。

テーマ1「ハード・ソフトウェアに関する今後の課題」

テーマ2「ネットワークとセキュリティに関する今後の課題」



近世から近代へ、近代から現代へ、現代から未来へ

A) 特徴 3度目の教育転換期(明治、戦後、現在)

明治 漢学から洋学へ、小中学校の急速な整備、国民皆教育、ドイツ流大学制度の導入

戦後 米国流教育の導入、高校大学の全国的整備、理工系修士課程の整備

1990年代～現在へ 若年人口の急減、高卒就職者数の急減、(中)高大の詳細な序列化

～現在 子どもの貧困率の上昇、所得格差が学歴格差に影響、高校生・大学生の主体性の喪失、大学と社会の関係の喪失、グローバル化の中での教育の国際競争

B) 転換期の共通性:

質的転換の進行

地域・所得等の影響の克服

世界の大きな流れへの合流

新しい社会への適応、新しい知識・学習方法の学習

新しい教育方法・教育評価方法の導入

C) 日本の教育改革

格差問題の克服

高等学校教育の質的転換(社会に開かれた教育課程へ)

高等学校教育の多様性と基礎学力の担保の両立

新学習指導要領(高校2022～;小中高の国語, 地歴公民, 理数, 英語, 情報ほか)

高校生のための学びの基礎診断(仮称)(2019～)

大学教育の質的転換、3ポリシーの明確化

個別大学入学者選抜における多角的評価の導入

大学入学共通テスト(仮称)(2020～)

職業教育、ほか多数



文部科学省の有識者会議「高大接続システム改革会議」座長の安西祐一郎氏が「高大接続」改革に込めた思いを語ります。

2045年の学力（17）思考停止と規制緩和（2017年6月5日）

「高大接続」という言葉が独り歩きしている。目まぐるしく変わる世界で、私たちの子どもはどんな力を求められるのか、それにふさわしい教育を創っていこ…



全文表示へ ▶

読売教育ネットワーク<http://kyoiku.yomiuri.co.jp/torikumi/gakuryoku/>